

【 編集後記 】

マスク生活もずいぶんと板についてきました。去年の今頃は、まさか世界がこんなことになるなんて想像もしていなかったなあと思えます。

今秋生まれて初めて「生筋子」を購入しました。今まではありがたいことにおぼれをいただいていたのです。まさか海の様子がこのまで変わる日が来るとは思ってもいなかったと、これまた沁々。

今年はいくつかの当たり前が当たり前ではないと言ったことをまざまざと思い知らされる年になりました。だからきっと、今の当たり前も、来年、いや数ヶ月後には形を変えるものが沢山ある。むしろ変わらないものなんて無いのかもしれない。諸行無常って言うし。

今回、小野瀬さんと未来塾の皆さんにお話をうかがい、変化をキャッチして対応していく人達や、意図的に変化を与えていく立場の人達がいる、実はそうやって持続できているものって沢山あるのでは無いかと考えさせられました。何年か前にスティックで有名な歌手の方が「変わらないために変わり続けるんだよ」と話されていたことを思い出しました。(N)

— SPECIAL THANKS! —

あかつきダイニング
A マート
川北郵便局
郷土料理武田
ぎんれい精肉店
くるくる2
合田商店

後藤商店書店部
標津漁協直売所
標津郵便局
セイコーマートこんどう標津店
セイコーマート標津まるよし店
セブンイレブン標津町店
大地みらい信用金庫標津支店

ファミリーレストランいしばし
福住
ホームックニコット
ボンノウシテラス
鈴木漁業
未来塾
Kuni OFFICE

*五十音順・敬称略

Follow us on Facebook & Instagram & Twitter !!!

標津町内の情報などを更新！ぜひ検索してみてくださいね。



Facebook



Instagram



Twitter

— INFORMATION —

しべつろーかるふりーぱー
sipeto No.11
Autumn 2020



2020年10月31日発行
発行人 Ynet
発行所 〒086-1632
北海道標津郡標津町北2条西1丁目1番3号
標津町役場企画政策課内
TEL.0153-82-2131
FAX.0153-82-3011

- バックナンバーのご希望は上記までご連絡ください
- 次回発行は2021年2月の予定です

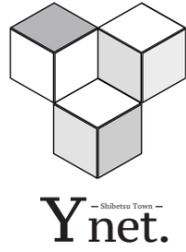


しべつろーかるふりーぱー
sipeto

Shibetsu Civic Pride Project by Ynet.



[CONTENTS] 発刊にあたって / Pick up! 「船上一本メ」 / インタビュー 2 2 小野瀬稔之さん - 2 3 しべつ未来塾 / 編集後記 / and more



皆さまのおかげで
3年目突入!!
Thank you

発刊にあたって

皆さんこんにちは。本紙を手にとっていただきありがとうございます。私たち「Ynet.」は町民活動の活性化、町内ネットワークの拡大・構築を目指し組織された役場職員で構成するグループです。標津町には様々なまちづくりに関係する活動をしている団体や個人の方がいて、実際にお会いしてみると、標津町にはこんなにも面白い深い人たちがいるね、と気づかされました。本紙の表題「sipeto(シペト)」は標津の語源になったとされるアイヌ語「シペツ」と日本語の「人(ト・ト)」を掛け合わせた造語で、標津に住む活動的な方々をたくさんの方に知っていただきたく名付けました。

sipetoを通じて人の活動に込められた『想い』に触れて、知って、共感して、共に活動する方が一人でも増えることになればうれしく思います。

Ynet.

What is
「船上一本メ」



Touch, Know, Sympathize,
Pick up!
船上一本メ
HOKKAIDO SHIBETSU Senjyo Ippon Jime

魚が船上で生きているうちに血液を抜く「脱血」や、延髄などの急所を断ち切る「即殺」で、魚の品質や鮮度を向上させる活メ技法のことを、標津町独自の呼称として「船上一本メ」と命名されました。
「船上一本メ」は「色よし、味よし、品質よし」の三拍子がそろった魚に変化させて、特徴的な効果である「色合いの向上、生臭み・酸化の低減、身質の張りなど食感の向上」などまさに美味しさを極めた技法です。

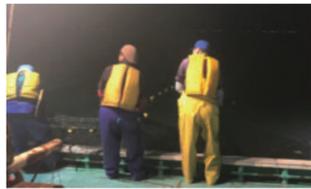


裏面インタビュー記事で小野瀬さんがお話してくださった電気タモです。間近で見るととっても大きい！この電気タモでサケを仮死状態にさせ、「船上一本メ」を効率的に作れると言うことなんです！

実は私たち、サケ漁船に乗せていただきました！ REPORT



AM1:00 標津漁港に集合。酔い止め薬を飲んで緊張と共に1:30出港。暗闇へ突き進んでいく感覚と、小さくなっていく町の灯が印象的でした。



10分程で漁場に到着。皆さん手際よく準備をし次々と網を引き、タモでサケをすくいます。タモに電気を流し、サケを失神させ質の良いサケを選び脱血させる姿はまさに職人技…！



漁場を数回巡り、帰港したのはAM4:00。そこから荷揚げ作業が始まります。サケを一目で選別するその熟練された手捌きに私たち一同目を奪われっぱなしでした。



気が付けば夜が明け朝が始まっていました。私達が帰宅したのはAM5:00ですが、漁師さんの仕事はまだまだ終わりません。標津町に住みながらも初めて乗るサケ漁船。本当に貴重な体験をさせていただきました。

Onose
Toshiyuki

サケ漁師 小野瀬稔之さん



一漁のVTRを見ながら
洗浄水、大腸菌のない水で船周りを流して、魚槽にも入れて出航します。大体16ノットで走って、港から漁場まで11分。漁場に着いたら電気タモを用意する。タモはサケをすくう網。電極からチェーンとか張り巡らせて通電してるので、要は人間のAEDみたいな電気ショックでもってタモに入っているサケの心臓を一回感電させ仮死状態にする。その隙に船上でササメ(エラ)を切って脱血する。それが活〆(かつじめ)。サケが暴れるからふたりがかりじゃないと活〆ってできない。暴れるから抑え込みが強かったらうっ血しちゃう。特にメスだと筋子にダメージがでちゃう。それが100%ないように仮死状態にさせると効率よく活〆ができると。あと、船倉で暴れないから氷の消費量も少ないんですよ。2〜3割節約になっている。

この電気タモ作った人が東大の大学院で研究して、何を研究したかって、アニサキスを殺すためにって。



映像を色々見せていただきながらお話を伺いました

一電気タモの始まりはアニサキスを殺すため？
カツオとかブリとかシイラとかのアニサキスを殺す為に開発された。でも8割しか死滅できなかった。100%ではないから、実用性がなかった。サケを仮死状態にするのは5年かけてデータを作ったんだけど、どれだけ血が流れるとか、旨味成分の量とか、イクラが大丈夫だとかようやく発表できた。あとはめるべき魚を選ぶ。選び方はBオス、BBオスとかで品質がいいものはべて違う魚槽に入れて、悪いものは普通の魚槽で脱血する。

あれだけ捕れてたサケが昔の1/10でしょ。そしたら付加価値つけて売らないとさ。差別化。これからは丁寧に扱っておいしいものを生産する。捕るんじゃ

なくて農家さんのように生産するというように意識改革が必要なんじゃないかな。大学の先生とかの研究ってうちを助けてくれると思うんだ。

一私たち庶民には少し高級な魚になってしまわうぞね...

奥様の考えからすると、「あ、これは血がなくていいわ」ってなるでしょ？きれいな内臓を見たらこれなら絶対おいしくない訳はないと。そういうふうで考えてもらえば、これから主流になるのは活〆がなるんじゃないかなと。

一電気タモの最初の導入は何年？

6年前だから2014年から。タモでなくて小さい船でもできるっていうバージョンもある。

一サケ以外で試したことはありますか？

サケ以外ならニシンやったことあるんだわ。ただ20円や30円のニシンにそれかけてもなんかなあ(笑)でもニシンも脱血したやつそうでないやつと全然違うから。ニシンもサバも締めるとキレイ。なんでもいから丁寧に扱っていかないともうやっていけないんじゃないかな。魚離れもなんとかしてほしいし、おいしいものを生産することがいいんでない？自信を持ってうまいから。

あとさ、農家さんと漁師がタイアップしているんなこと考えたりするっていいよね。単独でどうしていくかを考えるより、もっと深いもの考えられるんじゃない？漁農食堂とか、いいことだ。あとはアミー(しべつ Amie)みたいに、標津の魚を使った料理をみなさんに提供するっていうのもいい。それを踏まえて俺らもなんかかんがえなければならぬ。標津の人が一人でも多く活〆っていうものを知ってくればいいな。これならうまくない訳ないわってね。

企業とタイアップして生産して、それを売っていうところまで標津でできたらな。企業はこういうような要望が東京であるよ、大阪はこうですよ。だからこういうの作ってくださいって言われた方が俺らもいいのか。標津が今後生き残るには活〆が必須かもしれないね。特に位置はね。

「捕る」から「生産」へのシフトチェンジ

22

一標津にとって大事なことですね？

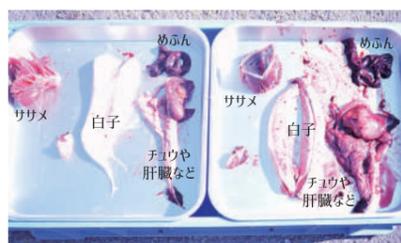
若い世代にさ、サケの資源、ホタテの資源を俺らの世代で潰してしまったら気の毒だ。なんとか若い世代、孫の代にも食べられるような形でもってさ、受け渡してあげたいなって思う。資源を無くすのも無くさないのも俺らの責任だからな。

一標津町への愛着、誇りってどういうの？

やっぱりさ、標津町って自分の心の故郷だと思う。生まれてからずっと育ててさ、心のふるさとがあるから一生懸命できるのかな。それが自分の信念だと思ってる。やっぱりおいしいって魚食ってくれば漁師冥利につきるね。生産者はね、おいしいって言われただけで苦勞が報われる。だから余計に「船一本〆」(「船一本〆」の説明は表面をご覧ください)のようにおいしいものをみんなに食べてもらいたいなって。

一町民の方や町外の方に知ってもらいたい町の魅力は？

サケの町だからな。サケを今以上に知ってもらいたい。一本〆だって町民も実際問題なんだそれって人もいると思う。まずは全町民になんとか「船一本〆」っていうのをわかってもらいたいなって思う。そしてそれをおいしく食べてもらいたいね。



小野瀬さんが脱血したサケとしていないサケを捌いて見せてくれました。写真左側が脱血しているサケの内臓。右側がしていないサケの内臓。画像が小さくて見づらいですが、明らかに血液の量が違います！特に顕著だったのが白子！脱血している白子は真っ白でとても綺麗でした。手間はかかるけど、船上で脱血し活〆する意義を見せていただくことができました。

Shibetsu
Miraijuku

しべつ未来塾

写真左上から佐野さん、齋藤さん、高井さん、仁科代表
左下から太田さん、鈴木福代表、竹村事務局員、神田さん



一団体の発足した時期、構成メンバーは？

仁科) 第1期が平成26年から。1期3年で、現在第3期です。新メンバー3人を含め12人で活動していて、30歳前後の人が多いです。

高井) 職業は役場職員、土木関係、看護師、水産関係、漁師、酪農業など、標津町の産業をほぼ網羅してますけど、商工業の人がいないですね。

一未来塾とはどんな団体ですか？

竹村) 町の次世代リーダー育成の取り組みです。そのために研修等含めて学びながら、塾生同士、町内外の若い団体との関係をつくっていく。同時に標津のことを学ぶ、自分たちの地域をもう一度見直してみることもテーマにしています。



インタビュー時の仁科代表

一活動の課題や困っていることはありますか？

仁科) 会議でやりたいことを洗い出したとき、大まかに4つの分野が出てきました。分野によっては塾生でモチベーションが違うので、塾生同士どう巻き込んで活動していくかは、今後の課題というかな。みんな協力してやっていくんだとは思いますが。

竹村) 町内の異業種交流も目的のひとつなので、一人でも多く新メンバーに参加してもらいたいと考えています。興味がある方は気軽に連絡ください。

太田) 友達ほしい人はぜひ。

鈴木) 仕事や家庭があって、さらに未来塾なので、忙しい時期は参加するのが大変なこともあります。知り合いが増えたことは良かった。

齋藤) 助けてほしいときに未来塾にメンバーにLINEするよね。「ちょっとこういうことに詳しい人いる？」みたいな。すごく助かる。

一日々の暮らしの中で、大切にしていることや意識していることは何ですか？

佐野) 先日の300歳ソフトボールとか、町のイベントがあったら顔を出させてもらって、その中で知り合った人とは、なるべく町で会ったらあいさつできるような関係を持つようにしています。

仁科) 僕は移住者なので、たとえばサケが川をのぼるって本州じゃ考えられないことなので、感動的なことが目の前で起きているということ、いつも改めて思い返しています。

一これまでの活動実績や活動の頻度は？

齋藤) 2期の実績だと、サーモン科学館での「お鮭屋敷」など町内イベントを企画したり、中学・高校でのキャリア学習講師、いのちの大切さを学ぶ「いのちの教室」開催、札幌のNPO法人 ezorockさんや他町の団体との交流などですね。

高井) 2期目の終わりに標津波心会さんとのコラボして、オンラインでニシンのさばき方教室をやったりもしました。第2弾とかもやりたいですね。



お鮭屋敷の終了後に撮った集合写真

一標津町の魅力はなんだと思いますか？

高井) 私は中標津に住んでるんですけど、若い人がまちに興味をもって活動しているところにすごく感じます。

太田) 未来塾もそうだけどこの町が若い人の意見を否定しないのかな。全部じゃないけど意見を聞いて反映してくれるから、自分たちが楽しく活動できる。

齋藤) 他の団体さんの活動も刺激をもらうよね。お互いに切磋琢磨している感じはあります。

高井) 町の人が頑張っている姿を町内外の人に知ってもらえたらなと思います。

この町をえがく この町を学ぶ この町をつくる

23

仁科) 町外向けにいったら、せっかくサケの町なので、もっと今以上に「サケの町」を出していくべきだなと思いますね。

齋藤) ワークーションとか流行っているけど、猛暑とコロナを避けるのに移住するなら標津だと思います。東京から飛行機1本で来られますし。

一その魅力を知ってもらうためにしべつ未来塾でやっていきたいことはありますか？

高井) SNSでの情報発信が弱いと思うので、積極的にやっていきたいです。

齋藤) あとはやっぱり、魅力を知ってもらうための拠点がほしい。コミュニティスペースを作りたいっていう話は2期目からずっと出てるけど、町内外問わず人が集まれる場所は絶対にあったほうが良いと思います。

一3期目の最終的な目標やゴールはなんですか？

仁科) 未来塾が一丸となってここを目指すというより、齋藤さんは標津を持続可能なまちにしたいとか、太田さんは色々なまちにつながりを作りたいとか、僕は学んだことが仕事の糧や個人の稼ぎにつながれば良いなって思いますし、他にもそれぞれ思っていることは違うけれど、一緒に目指せる範囲だと思うんですよ。なので、未来塾としてどういう方向に進んで行くかというのは、今後しっかりと話し合ってお互いのことを知って、固めていきたいなと思っています。

塾生を募集してます！

- ・ 標津町のことをもっと知りたい！
 - ・ この町に友達がほしい！
- という方、未来塾メンバーになりませんか？

活動内容など詳しくはこちらをチェック ▶



【しべつ未来塾】
お問合せ：0153-82-2900 (事務局あすぼる)